

## 第60回 茨木市生花展

市民から公募した生花を展示  
茨木市茶華道連盟によるお茶席を同時開催

■平成29年4月21日(金)～23日(日)  
10:30～17:00(最終日は16:00まで)

茶席は16:30まで  
(最終日は15:30まで)

■生涯学習センター  
きらめきホール

問合せ先 文化振興課 (TEL 620-1810)



## 現代美術—茨木2017展

特集作家と公募による現代美術作品の展覧会  
アーティストトーク、ワークショップなどのイベントも開催

■平成29年5月29日(月)～6月4日(日)

(ただし、30日(火)は休所)

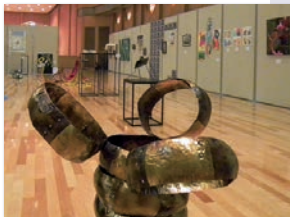
10:00～19:00  
(最終日は17:00まで)

■生涯学習センター  
きらめきホール・ホワイエほか

■作品も募集しています。

- 出品料: 1000円
- 搬入: 5月28日(日) 13:00～17:00  
生涯学習センター きらめきホール
- 搬出: 6月5日(月) 17:00～19:00

問合せ先 文化振興課 (TEL 620-1810)



## 茨木市文化振興財団第210回公演 テレマン・アンサンブル「J.S.バッハの真相」 The truth of Johann Sebastian Bach

●平成29年5月3日(水祝) 15:00開演(14:30開場)

●茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)  
センターホール

●全席指定 一般: 3,000円  
65歳以上、障害者およびその介助者: 2,500円  
24歳以下: 1,000円

※就学前のお子様のお入場はご遠慮ください。

●出演 指揮&お話/延原武春  
チェンバロ/高田泰治  
ヴァイオリン/浅井咲乃  
フルート/森本英希  
演奏/テレマン室内オーケストラ



延原武春

●プログラム

◆J.S.バッハ

管弦楽組曲 第2番/イタリア協奏曲  
ブランデンブルク協奏曲 第5番 二長調

◆A.ヴィヴァルディ

「調和の靈感」作品3 第11番 2つのヴァイオリンと  
チェロのための協奏曲 二短調

(バッハ作曲「オルガン協奏曲二短調」の元となった作品) ほか

※都合により曲目は変更になる場合があります。予めご了承ください。



テレマン室内オーケストラ

高田泰治

浅井咲乃

森本英希

### 展示コーナー

(平成29年4月～7月)

日程は変更することがありますので、詳細は  
生涯学習センターまでお問合せください。

4月15日(土)～28日(金) 油彩画(歩みの会)	6月7日(水)～19日(月) <ガラス戸棚> 陶芸(陶芸選趣会)
5月13日(土)～27日(土) 墨絵(茨木公民館 墨絵の会)	6月7日(水)～21日(水) 墨絵(墨彩画同好会)
5月29日(月)～6月4日(日) 茨木市現代美術展	6月22日(木)～7月5日(水) 書道作品(みしま書道墨絵同好会)
	7月7日(金)～21日(金) 書道(法帖研究会)

投稿募集・・・皆さんの投稿、情報をお待ちしています。

〒567-0028 茨木市畑田町1番43号  
茨木市立生涯学習センター内 生涯学習情報誌「まなびどり」事務局  
TEL 072-624-8182 FAX 072-622-1268  
E-mail kirameki@city.ibaraki.lg.jp  
(投稿いただきましても、掲載できないこともあります。ご了承ください。)  
掲載している記事やイラストを使用される場合はご一報ください。

<チケットの申込み・お問合せ>

(公財) 茨木市文化振興財団・文化事業係  
TEL 072-625-3055 (9:00～17:00)  
インターネットチケット [www.ibabun.jp](http://www.ibabun.jp)

※初回のみユーザー登録(無料)が必要です。  
クリエイトセンター1Fチケットカウンター(9:00～17:00)  
福祉文化会館3Fチケットカウンター(9:00～17:00)

「まなびどり」はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kira.city.ibaraki.osaka.jp/>

エッセイ 第56回

「公共空間としての飲食店」

近藤 久孝

何かにつけ比較される「茨木」と「高槻」だが、この土地に住んで三十年の私でも、残念ながら、高槻に軍配を上げざるを得ない点がいくつかある。その中でもよく感じるのが「飲食店」の雰囲気の違いだ。

誰もがアクセスできる空間は、商業施設であれ公共スペースであれ、それは「パブリックな空間」だ。「パブリック」には「プライベート」とは異なる作法が求められる。どの客に対しても公平なサービスを提供する、それは「パブリック」の最低要件だ。

茨木の多くの店が、常連の「プライベート」の延長「空間と化している。店主との距離感の近さを誇りたがる常連が、初めての来客に睨みをきかせる、という光景は、高槻よりも茨木において、より多く見受けられるようなのだ。

茨木に賑わいを定着させたいのなら、こういった面での、閉鎖的な意識を変革させる必要があるのではないだろうか。他地域からの来訪者が居心地よく過ごせるような飲食店が増えてほしいものだ。